

文化祭における地域学校協働活動

東白川村教育委員会

1 はじめに

2年に1回の研究調査掲載の機会に、本村の人口等の推移を確認している。今回、過去2回からの変化を見た。結果は以下のようである。(左から順に、本年度←R3←R1の11月時点での数値)

◇世帯数…826世帯 ← 817世帯 ← 831世帯 (プラス9世帯 ← マイナス14世帯)

◇人口……2,080人 ← 2,135人 ← 2,217人 (マイナス55人 ← マイナス82人)、

◇子どもの数…保育園年少～年長 32人 ← 33人 ← 35人 (マイナス1人 ← マイナス2人)

小学生 70人 ← 78人 ← 79人 (マイナス8人 ← マイナス1人)

中学生 39人 ← 39人 ← 44人 (プラマイ0人 ← マイナス5人)

高齢化率が45%と高いため、人口の減り方は著しいが、村の移住定住政策の効果もあってか、世帯数は若干増えている。ただ、それでも残念ながら、子どもの数はじわじわと減っている。

2 昔からある様々な地域学校協働活動

小さな村がさらに小さくなっていく現状なので、教育委員会事務局職員の数も前年よりさらに1名減り、教育長を含めて7名に。加えて、コロナ感染症の扱いが軽くなって行事がかつてのレベルに回復したことにより、忙しさはさらに増した。しかし、村の子どもや大人たちが元気に楽しく学んだり活動したりする場や方法を提供・提案できるように全職員でがんばっている。

村では、昔から「子どもは村の宝」を合言葉のようにして、地域と学校がお互いの活動に協力し合うことで、子どもを育ててきた。こうした活動は、「郷土歌舞伎公演」「緑化少年団」「小学校全校登山」「カヌー教室」など、たくさんあるが、今回は、「文化祭」について紹介する。

3 実践……村の文化祭に中学校の合唱を位置付ける

村の文化祭は、文化協会主催の行事で、毎年11月2日と3日(文化の日)の2日間、開催される。1日目は、文化展のみの開催、2日目はそれに芸能発表が加わる。文化展にしる、芸能発表にしる、文化祭は1年間の活動の成果を披露する場である。

(1) 文化展

文化協会登録のサークルとしては、「山野草」「写真」「手芸」「俳句」などがあり、このほかにも個人やグループによる出展も認められている。絵手紙、絵画、書などのほか、ジオラマや紙粘土を使った造形作品などの出展もあって、思わず見入ってしまうほどの力作ぞろいである。また、保育園、小学校、中学校、福祉施設などからも、絵画を中心に出展される。

(2) 芸能発表会

芸能発表会は、2日目の午前のみの開催である。「女声合唱」「吹奏楽」「和太鼓」「フラダンス」「大正琴」のサークルが日ごろの練習の成果を発表する。かつては、民謡(踊りや唄)、詩吟などもあったが、時代の流れとともに無くなった。

<文化展の様子>





コロナ禍真っ只中の頃には、芸能発表会の存続が危ぶまれた。練習不足に加え、生演奏ができないため、過去の対外演奏会に出場した時などのビデオを大きなスクリーンに映し出して、その場をしのいだ。今年は、女声合唱団も4年ぶりに出場し、全サークルの演奏発表ができた。

とはいえ、かつてのような賑わいがなくなっているのが現状で、その窮地を救ってくれたのが、中学生の合唱である。

昨年度から東白川中学校が芸能発表会に参加し、全校合唱と学年ごとの合唱を披露してくれるようになった。中学校はこの日は授業日扱いで、午前中は芸能発表会で合唱披露と他のサークルの演奏を鑑賞し、午後からは文化展を見学した後、学校に戻っていく。今年から、伝統の加茂郡中学校音楽会が4年ぶりに再開されたこともあり、中学生にとっては、文化祭での合唱披露は、絶好のリハーサル場となった。また、親、近所の大人が演奏する姿や彼らの出展作品を間近に見て、大人たちの新たな一面を発見する機会となった。さらに、自分たちの合唱を多くの人に喜んで聞いてもらえたことで充実感を味わえた。主催者側にとっては、中学生の保護者や家族が多く訪れることで賑わいが増し、中身の濃い内容となった。学校にも地域にも一挙両得の行事となった。



＜村の文化祭で中学生が合唱披露＞

（3）今後の展開

来年度からは、新しい試みとして文化祭と産業祭（秋フェスタ）をドッキングすることにした。文化祭に訪れる人と産業祭に訪れる人は、客層が異なっており、両方を同時に実施することで集客の増加を図るといふねらいがある。買い物や飲食、展示やステージ演奏などを幅広く楽しみ、多くの村民が集える場となればよい。また、文化協会のサークル会員の新規増加につながれば、これほどうれしいことはない。

4 成果と課題

（1）成果

今回、地域の活動（社会教育活動）に学校や子どもを取り込むことで、行事の盛り上がり、地域の活性化、子どもの見聞を広げることにつながった。

（2）課題

文化祭に限ったことではないが、まだ、教育委員会が音頭取りをしたり、事務を引き受けたりしないと開催に至らない行事が多い。教育委員会の手を離れ、メンバーだけで企画や運営ができるようになることを目指したい。

5 最後に

地域と学校が相互に関わる取り組みを充実させることが、子どもたちの「地域や社会をよくするために役立ちたい」という意識の醸成につながっている。かつて「村の宝」として育てられた子どもたちは、現在、その思いを引き継ぐ大人になり、地域の一員として村の子どもたちに関わってくれている。今の子どもたちも、きっと大人になったときには、何らかの形でこの村を支えていく存在になっていくことと思う。